

「遊びに来たよ!」「うえちゃん、今日は何するの?」。小学校の体育館で、友だちのような会話が弾んでいました。視線の先に居たのは、厚真町放課後子ども教室専任スタッフの上道さんや子どもたち。町から委託され、社会教育に取り組んで間もなく丸12年。子どもの活動を通じて地域づくりに情熱を注ぐ上道さんに話を伺いました。



オフィスあつぷ・ろーど代表

Vol.45 うえみち かずえ  
上道 和恵さん

## 子どもが主役の町づくりに情熱注ぐ

砂金の採取やハクチョウなどの係留地・クツチャコ湖で知られる浜頓別町の出身です。札幌市内の大学に進学し、子どもたちの道徳性を養う環境教育を学びました。大学4年の時、授業の一環で参加した市内のNPO法人の環境教育活動に参加。NPO法人から就職先にと勧められました。が、「民間企業で社会経験を積み、近い将来、活動できるように資金を蓄えたい」と断り、活動に参加しながら民間企業に就職。社会人4年目の平成23年に「転職」とらえ、誘われたNPO法人に転職しました。

「厚真には、教育活動に関わる事ができるプレーヤーがそろっています。横のつながりを大切にしながら子どもたちの可能性を伸ばし、皆と一緒に地域を盛り上げたい」

チャンスはすぐに訪れました。法人から「厚真町から来年開設される放課後子ども教室の業務委託の話があるけど、上道さんやってみない?」と告げられました。胸が高鳴りました。町教委の職員と一緒に体験プログラムを中心としたカリキュラムを考え、試行期間2年間の条件付きで平成24年4月1日に事業はスタートしました。「土地勘も無く人も知らなかったのですが、不安以上に期待感は大きかった。2年後に仕事を無くし

てはいけないと思いましたね。厚真を知るために必死で人脈づくりに駆け回りました」。

平成28年、所属していたNPO法人の発展的解消に伴い、自ら才フィスあつぷ・ろーどを設立して事業を継続。農作業の体験やイベントへの参加など、地域との関わりを大切にしながら、子どもたちの成長を助長しています。「厚真で初めて友だちになってくれたのは子どもたち。今では、保護者や農家、商工会など大勢の仲間ができました」。

放課後子ども教室の卒業生は約390人で、卒業生の最年長は23歳になりました。進学や就職で厚真を離れても、帰省時に教室に顔を出してくれたり、イベントを手伝ってくれる子もいます。活動が少しずつ花開いていることを実感しています。

厚真で暮らす人、働く人、応援してくれる人、訪れる人・・・  
みんな、みんな、**ATSUMA LOVERS**